情報公開文書

2023 年 2 月 20 日作成
版数：第 3 版

ガマ腫、耳下腺嚢胞、耳下腺の石灰化はシェーグレン症候群の新たな兆候か？

1、研究の目的と意義

近年、シェーグレン症候群の新たな兆候として、ガマ腫との関連が報告されています。また、これまでに耳下腺の嚢胞や石灰化などの兆候もシェーグレン症候群との関連が報告されています。しかし、これらは詳細な分析データに乏しく、その特徴はまだ十分には解明されていません。そこで我々は、これらの兆候とシェーグレン症候群との関連を過去の画像、臨床データから抽出し、解析することで両者の関係を明らかにすることを目的とした研究を行います。この研究によって、シェーグレン症候群の新たな兆候として、ガマ腫、耳下腺嚢胞、耳下腺の石灰化などが挙げられれば、これまでよりもより早期での発見や、これまで見逃されてきた新たな患者さんの発見につながる可能性があります。

2、対象となる患者さん

2008 年 6 月 1 日～2022 年 5 月 31 日に長崎大学病院において、唾液腺（耳下腺、顎下腺、舌下腺）を含む MR 検査、CT 検査が施行された患者さんのうち、唾液腺にガマ腫、耳下腺の嚢胞、石灰化が見られた方

3、研究の方法

上記に該当する患者さんを対象に画像検査上、唾液腺にシェーグレン症候群を示唆する異常所見があるかどうかを確認します。さらにそれら患者さんのうち、実際にリウマチ膠原病内科専門医のよってシェーグレン症候群と確定診断された患者さんの数を確認します。そして、確定診断された患者さんと診断されなかった患者さんの臨床的な特徴や画像検査上の特徴を比較し、分析します。

4、研究に用いる試料・情報

・MR 検査画像
・CT 検査画像
・ガマ腫、耳下腺の嚢胞、石灰化の病理組織検査を行っている場合はその結果
・シェーグレン症候群の診断を確定するために必要な以下の検査情報
　眼、口の乾燥症状の有無
　血液検査(SS-A 抗体、SS-B 抗体、抗核抗体、リウマチ因子)
　口唇腺生検
　眼染色試験
　唾液分泌量
　涙液分泌量

・リウマチ膠原病内科専門医によるシェーグレン症候群の確定診断情報

5、研究期間

研究機関長の許可日～2024 年３月 31 日

6、外部への試料・情報の提供

該当なし

7、研究実施体制

本研究は以下の体制（単施設）で実施致します。

＜研究責任者＞

長崎大学医歯薬学総合研究科　口腔診断・情報科学分野

高木　幸則

8.お問い合わせ先

＜連絡・問い合わせ先＞

長崎大学医歯薬学総合研究科　口腔診断・情報科学分野

住所：長崎県　長崎市　坂本１丁目７番１号

電話：095-819-7709（口腔診断・情報科学分野　医局）

＜苦情相談窓口＞　＊診療・臨床研究の内容に関するものは除く

長崎大学病院　医療安全課

住所：長崎県　長崎市　坂本１丁目７番１号

電話：095-819-7616（受付時間：月～金　９：00～17：00（祝・祭日除く））